

オン タイム 音time

野畑小学校 音楽室より
2020.9.18
No.4

音楽委員会

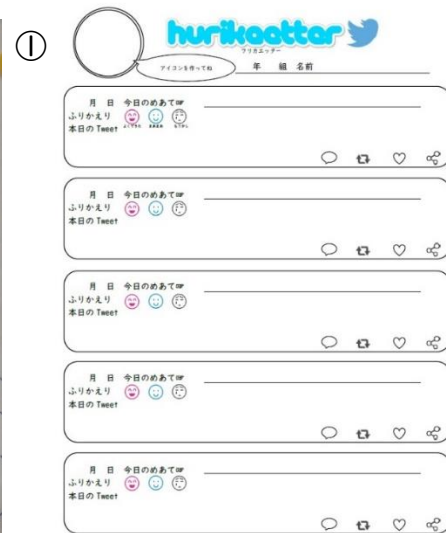
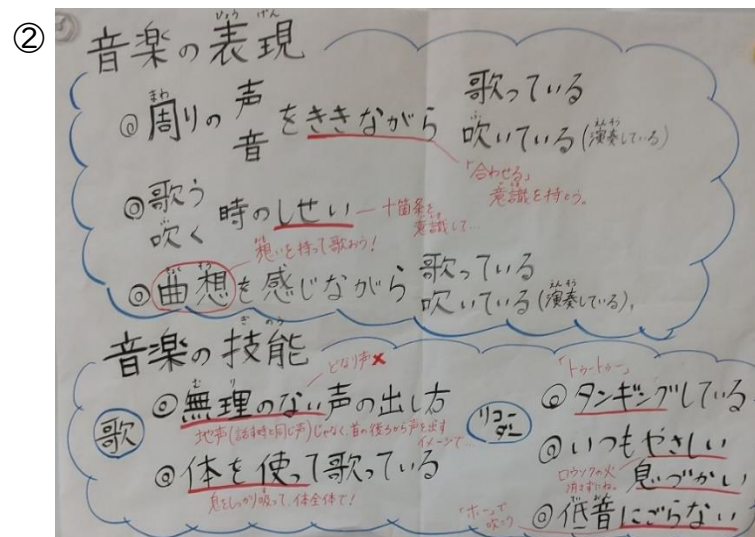
今年は様々な制限があり、これまでやってきたことをすべてリセットし、一から活動を作り上げていった音楽委員会。一学期は音楽の力で学校を元気にすべく、委員会のみinnで歌を歌い、それを給食の時間に流す、という活動を行いました。曲は、岡本真夜さんの「Tomorrow」です。選曲を含め企画から実行まで、すべて子どもたちでがんばりました。おしゃべりができないちょっと寂しい給食時間に、癒しの歌声を響かせてくれました。

めあてをもって歌う・吹く

音楽の授業でつけてほしい力、がんばってほしいことを、子どもたちと共有しました。1時間の授業の中で、この中のどれか一つでもできればOK!「今日はこれがんばる」というめあてをしっかり持って歌おう・演奏しよう、というところから二学期の音楽はスタートしました(①)。

一人ひとりがしっかりとがんばりどころを定めることができるように、見通しをもって学習に取り組むことができるように、ふりかえりシートもつくりました(②)。その名も hurikaetter (フリカエッター)です。某SNSに酷似していますね。そうですね。がんばって寄せていきました。めあては①から自分で選んで書きます。授業の始めに「今日のMenu」の確認、それに即して、めあてを自分で考えて書く、という流れが出来上がりつつあります。いい感じです。授業の終わりにふりかえります。「今日はこれがよくできた」「ここがもう少しだったから次回がんばりたい」など、自分の言葉で書いていきます。他教科の授業と同じです。フリカエッターだけにハッシュタグをつけて書いていたり、スマホ文化の浸透を感じさせられます。余ったスペースにプライベートなことを書いてくれる子もいて、毎回楽しく見えています。

音楽は歌唱・演奏などの活動がメインで、そこに大半の時間を割くため、これまで「書く」というところはなかなかできずにいましたが、こうして「書く」ことで、「考えながら」歌う・演奏する、ということにつながっていくことができたらと思っています。



W. D. H~わりと どうでもいい はなし~朱夏

最近になって、子どもによく年齢を聞かれます。それはさておき、少しずつ秋めいてきました。ついこの間まで暑い暑いと嘆いていたのに、朝晩は肌寒いくらいです。毎日暑い暑いとつぶやいていた名残からか、特に暑くなくても時々、つい口癖のように「暑い」という言葉が口について出てしまいます。私だけですか。そうですか。

夏、終わってほしくないです。まだ秋来てほしくない!夏だからって特に何をするわけでもないのですが、毎年毎年、ただなんとなく特別な時間がものすごいスピードで過ぎ去っていった、というよくわからない喪失感だけが残り、「うわー夏終わるーうわー」という、言葉にできない焦燥感にしばらくの間苛まれるのです。これが秋です。嫌な季節です(主観のみでお話しております)。ついでに、秋は誕生日も来るのでまた一年を取ってしまう、という残念感もあります。もう30代も折り返しです。青春時代などどうに昔ですが、いつまでも10代・20代の感覚が抜け切れません。

ところで、青春には続きがあります。なんて書くと、何かのキャッチコピーのようですがそうではありません。古代中国の、陰陽五行説では人間の一生の各年代を、四つの色を当てはめた季節になぞらえて、青春→朱夏→白秋→玄冬と表しました。青春という言葉の由来は、この五行説によるものです。おおまかに、青春は10代~30代、朱夏は30代~50代、白秋が50代~60代後半までで、それ以降が玄冬となる。らしいです。

一般的な感覚でいくと青春は10代で終わり、以降は「大人」として、名前のない時間を忙しく消費していくようなイメージですが、五行説に則れば、私の年代はようやく青い春が終わったところ、これから朱い夏に足を突っ込もうとしているところです。もう夏は終わりかけていますが、なんと、人生の夏は50代前半あたりまで続くのです!このお便りを読んでくださっている保護者の皆様も、おそらく人生において今は夏真っ盛りな方が多いのではないのでしょうか。

何が言いたいかと言うと、夏が終わりかけていますが私は人生の夏を謳歌しています。ということです。お粗末様でした。